

本年度開催された各種セミナーの報告

1. 関東ブロック災害廃棄物アクションプランを考えるワークショップ型セミナー

1-1. 開催概要

日 時：2014年12月22日（月）10：00～17：00

場 所：廃棄物・3R 研究財団会議室（〒130-0026 東京都墨田区両国 3-25-5）

参加者：ワークショップ参加者 23 人、テーブルマネージャー 4 人、事務局 3 人
プログラム：

【午前の部】 午後のグループワークに向けた話題提供

時間	内容
10：00～10：05	開会の挨拶
10：05～10：25	「東日本大震災における国の災害廃棄物対応」 環境省大臣官房廃棄物・リサイクル対策部廃棄物対策課
10：25～10：45	「伊豆大島土砂災害における東京都の取組」 東京都環境局資源循環推進部一般廃棄物対策課 災害廃棄物処理事業担当係長 荒井和誠
10：45～11：05	「特別区における災害廃棄物対策ガイドラインの検討を通して見えてきた課題」 江東区環境清掃部清掃リサイクル課 課長 堀田誠
11：05～11：25	「地震等大規模災害発生時の対応マニュアル及び災害廃棄物の分別手順ガイドの検討を通して見えてきた課題」 千葉県産業廃棄物協会 事務局長 山田岩男
11：25～11：45	「災害廃棄物マネジメントに必要な体制・役割」 国立環境研究所 資源循環・廃棄物研究センター 研究員 多島良

【午後の部】 グループワーク

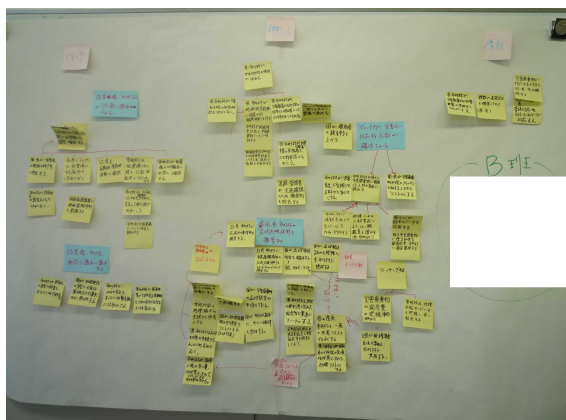
時間	プログラム
13:00～14:30	グループワーク 1 回目 「アクションプランのもとになる課題を抽出・整理する」 7～8名程度のグループに分かれ、災害廃棄物対策において課題だと感じている点について、模造紙と付箋を活用しながら意見を出し合い、出された課題をグルーピング、構造化した。
14:30～14:40	休憩

14:40～16:00	グループワーク 2 回目 「関東ブロックの災害廃棄物アクションプランを考える」 1 回目のグループワークで出されたそれぞれの課題に対して、どのような対応策を実施すべきかについて、模造紙と付箋を活用しながらグループ内で議論を行った。
16:00～16:40	グループ発表 各グループの議論内容を発表し、出された意見を全体で共有した。
16:40～16:55	重要対策への投票 各グループの発表をもとに、出された対応策のうち関東ブロックとして特に重要だと思われる対策に投票を行った。
16:55～17:00	閉会の挨拶

1-2. 当日の様子と議論の結果



グループワークの様子



グループワークの成果物例

都県域を超えて広域処理が必要となる大規模災害時において、災害廃棄物を円滑に処理するために求められる対策について、本セミナーの参加者から出された意見を整理・分類すると、1. 広域処理を円滑に行うための対策、2. 人材育成及び組織間ネットワークの構築、3. 実効力のある災害廃棄物処理計画の策定の3つに分けられる。それぞれの詳細は以下のとおりである。

①広域処理を円滑に行うための対策

- ・ 一廃及び産廃処理施設の処理能力、受入れ条件等の整理、共有
- ・ 災害廃棄物の輸送（域内輸送、広域輸送）に係る体制の整備
- ・ 災害廃棄物発生量の迅速な予測と広域処理に向けた連絡体制の整備
- ・ 初動期に必要な資機材、人材の確保
- ・ 広域処理に係る法令、ルールを整備

②人材育成及び組織間ネットワークの構築

- ・ 人材育成のための研修の実施
- ・ 組織間ネットワーク構築に資する場の設定
- ・ 災害廃棄物処理経験者のリスト作成・共有

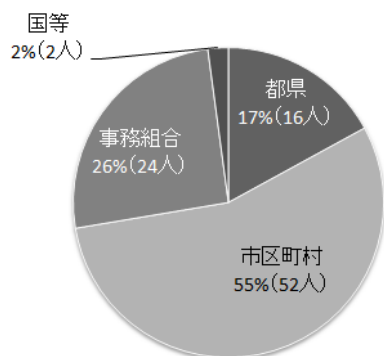
③実効力のある災害廃棄物処理計画の策定

- ・ 仮置場の確保、運用ルールの整備
- ・ 関係主体との協定の締結
- ・ 計画策定に向けた各種支援の実施

2. 東日本大震災等 経験共有セミナー

2-1. 開催概要

日 時：2015年1月27日（火） 13：00～17：00
場 所：全国町村議員会館 2階会議室（〒102-0082 東京都千代田区一番町 25番地）
参 加 者：110人（申込数は120人）



市区町村からの参加者が最も多く、全体の約半数であった。次いで清掃事務組合からの参加者が26%（24人）、都県からの参加者が17%（16人）であった。

図 経験共有セミナー出席者の内訳

プログラム：

時間	プログラム
13:00～13:10	開会のあいさつ 環境省関東地方環境事務所 所長 上杉哲郎
13:10～14:00	「岩手県における東日本大震災での災害廃棄物処理」 岩手県生活環境部環境保全課 総括課長 松本実
14:00～14:30	「宮古市の災害廃棄物処理」 宮古市市民生活部環境課 副主幹 三上巧
14:30～15:10	「東日本大震災からの復興めざして 大船渡市がれき処理の記録」 大船渡市都市整備部建設課 課長 西山春仁
15:10～15:25	～休憩～
15:25～15:55	「二次選別所について」 株式会社明和土木 土木部 部長 加藤憲夫
15:55～16:40	「災害廃棄物処理への自治体の備え」 (独) 国立環境研究所 資源循環・廃棄物研究センター 研究調整主幹 高田光康
16:40～16:55	質疑応答
16:55～17:00	閉会のあいさつ 環境省関東地方環境事務所 廃棄物・リサイクル対策課 課長 吉川圭子

2-2. 当日の様子



参加申し込みのあった 120 人のうち、当日は会場に 110 名が来場した。最初の岩手県松本総括課長からの講演では、岩手県全体における災害廃棄物処理の大まかな流れと県としての課題、それらの課題に対してどのように対応したか等についてお話いただいた。宮古市の三上副主幹からは、発災当時の宮古市の現状と市としてどのような対応に追われたか、また県に事務委託をするまでの流れ等についてご講演いただいた。3 本目の大船渡市 西山課長からは、発災初期の対応と処理の流れが確立するまでの市の対応が説明され、特に発災前に仮置場を検討しておくことの重要性が強調された。4 本目の(株)明和土木 加藤部長からは、二次選別所における作業の詳細や留意点等についてご紹介いただいた。最後の国立環境研究所 高田研究調整主幹からは、東日本大震災の事例を受けて、今後災害に備える

ために自治体が取り組むべき事項について講演をいただいた。

5本の講演後に各講演に対する質疑が会場からいくつか出され、概ね時間通り終了した。

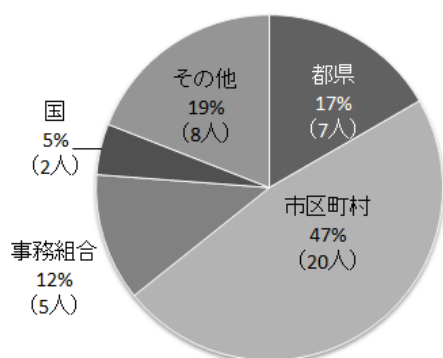
3. 災害廃棄物処理 技術セミナー

3-1. 開催概要

日 時：2015年2月17日（火） 13：00～17：00

場 所：LEN貸し会議室飯田橋 会議室A（〒162-0824 東京都新宿区揚場町2-14）

参 加 者：42人（申込数は50人）



参加者の約半数は市区町村からの出席者であり、次いで多かったのが都県からの参加者であった。その他に含まれるのは、建設業者や炉メーカー等、災害廃棄物処理に関わる民間事業者らである。

図 技術セミナーの参加者の内訳

プログラム：

時間	プログラム
13:00～13:10	開会のあいさつ 環境省関東地方環境事務所
13:10～13:50	「東日本大震災及び広島土砂災害における災害廃棄物処理の実例」 (一財)日本環境衛生センター西日本支局 環境工学部 宗清生
13:50～14:50	「災害廃棄物の仮置場の管理・運営」 (独)国立環境研究所 資源循環・廃棄物研究センター 主任研究員 遠藤和人
14:50～15:00	～休憩～
15:00～15:40	「東日本大震災における仮設・既設焼却炉での対応」 (一社)日本環境衛生施設工業会技術委員会 副委員長 近藤守
15:40～16:40	「災害廃棄物再生資材の有効活用について」 京都大学大学院 地球環境学 教授 勝見武
16:40～16:50	質疑応答
16:50～17:00	閉会のあいさつ 環境省関東地方環境事務所

3-2. 当日の様子



参加申し込みのあった 50 名のうち、当日会場には 42 名が来場した。最初の講演者である日本環境衛生センターの宗次長からは、東日本大震災及び広島土砂災害の事例をもとに、具体的な処理の課題や解決策等について説明があった。2 本目の国立環境研究所 遠藤主任研究員からは、東日本大震災における仮置場の事例を中心に、仮置場の適切な管理・運営に必要な技術的知見を講演いただいた。3 本目の日本環境衛生施設工業会 近藤副委員長からは、焼却炉メーカーの立場から仮設焼却炉の設置と運営に関するポイント、及び既設炉の早期復旧に向けた課題等について説明をいただいた。最後の講演である京都大学大学院 勝見教授からは、東日本大震災における災害廃棄物の再生利用に向けた取組の詳細と、再生資材として有効活用するための技術的ポイントを解説いただいた。

それぞれの講演後に会場との質疑応答があり、概ね時間どおりに終了した。

以上